

ぺたぴか



CONCEPT

マチに自分のモノをくっつける。商店街のまんなかで身のまわりのモノと光で作品をつくる。作品には磁石をつけて、思い思いに街にくっつけていく。自分たちの手で、街を光でアレンジしていく。いつも校庭や公園で遊ぶように商店街で遊ぶことで、子どもたちが街に愛着を持つキッカケが生まれる。商店街を中心とした大人と子どもをくっつけ、街全体で活性する場を創造する。

DIAGRAM

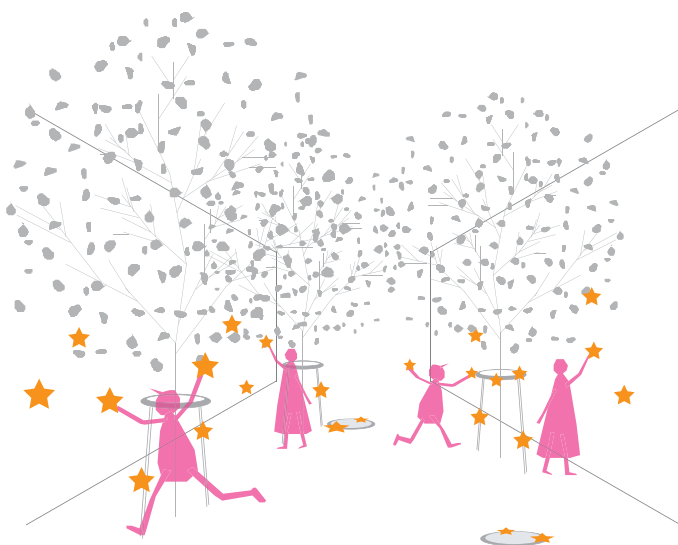
光をつくるワークショップ。街を輝かせるイルミネーション。その二つを融合させ、つながるイルミネーションとなる。



動き続ける光



街を飾る光



生まれた光が街に住む

MATERIAL

7色点灯LED、磁石、コップ、ブロック、植物、クリップ、ひも、布、紙、モール

■ワークショップ概要

担当：光のアート班（村川、瀬戸、鈴木、長谷川、宮島）

近年、住民参加のまちづくりの提案や実践はデザイナー、自治体を介し行われています。例えばガイダンス、テーマ設定、現地調査、結果整理を行うものや、社会体験を通じて子どもに対し住教育を行うものであったりと多種多様です。

私たちの活動は、ワークショップを通じ、自らの手で創作されたものが街の明かりになっていくことをテーマにしています。住民（子ども）が自分で考え、自らの手で街に光を取り付けるイルミネーションを行うことで、今までとは違う切り口からまちづくりの提案を考えています。今回のワークショップは、尾山台商店街商栄会の協力のもと尾山台盆踊り大会で行われました。



開催日：7/22(金)・23(土)
時間：第1回 16:00～ 第2回 17:00～
第3回 18:00～ 第4回 19:00～ 各回50人限定
supported by 東京都市大学工学部
建築学科小林研究室



あかりの手作りワークショップ。
「磁石」+「LED」+「じぶんのもの」を使って光をつくり、
ハッピーロードにその光を放して下さい。
自分でつくり、皆でつくる夏祭り。

※当日まで商店街に貼っていたポスターです！

■日時 2011年7月22日(金)～23日(土)

■場所 尾山台商店街盆踊り会場

■活動内容 手作りワークショップ

■スケジュール

1日目：7月22日(金)

16:00～ ワークショップスタート

19:30頃～ 街灯消灯(約30分)

20:00頃 ワークショップ終了

2日目：7月23日(土)

17:00～ ワークショップスタート

19:30頃～ 街灯消灯(約30分)

20:00頃 ワークショップ終了

■参加者

主催者 23名(教員1名+学生22名)

一般参加者 両日で500名(用意したLED個数分)

■ぺたぴか作り方



身の周りのもの

用意した材料	LED	1000個	クリップ	30個
	磁石	500個	ひも	860m
	コップ	400個	布	200枚
	ブロック	100個	紙	800枚
	植物	10個	モール	200本



スイッチ式
7色点灯 LED



磁石（異方性フェライト）
直径×厚さ：φ 15 × 4mm
吸着力：350g
磁石の重さ：3.4g
表面磁束密度：890 ガウス



①顔をつくる



②体をつくる



③ LED 電球を付ける



④磁石を付ける



完成！街に付ける！



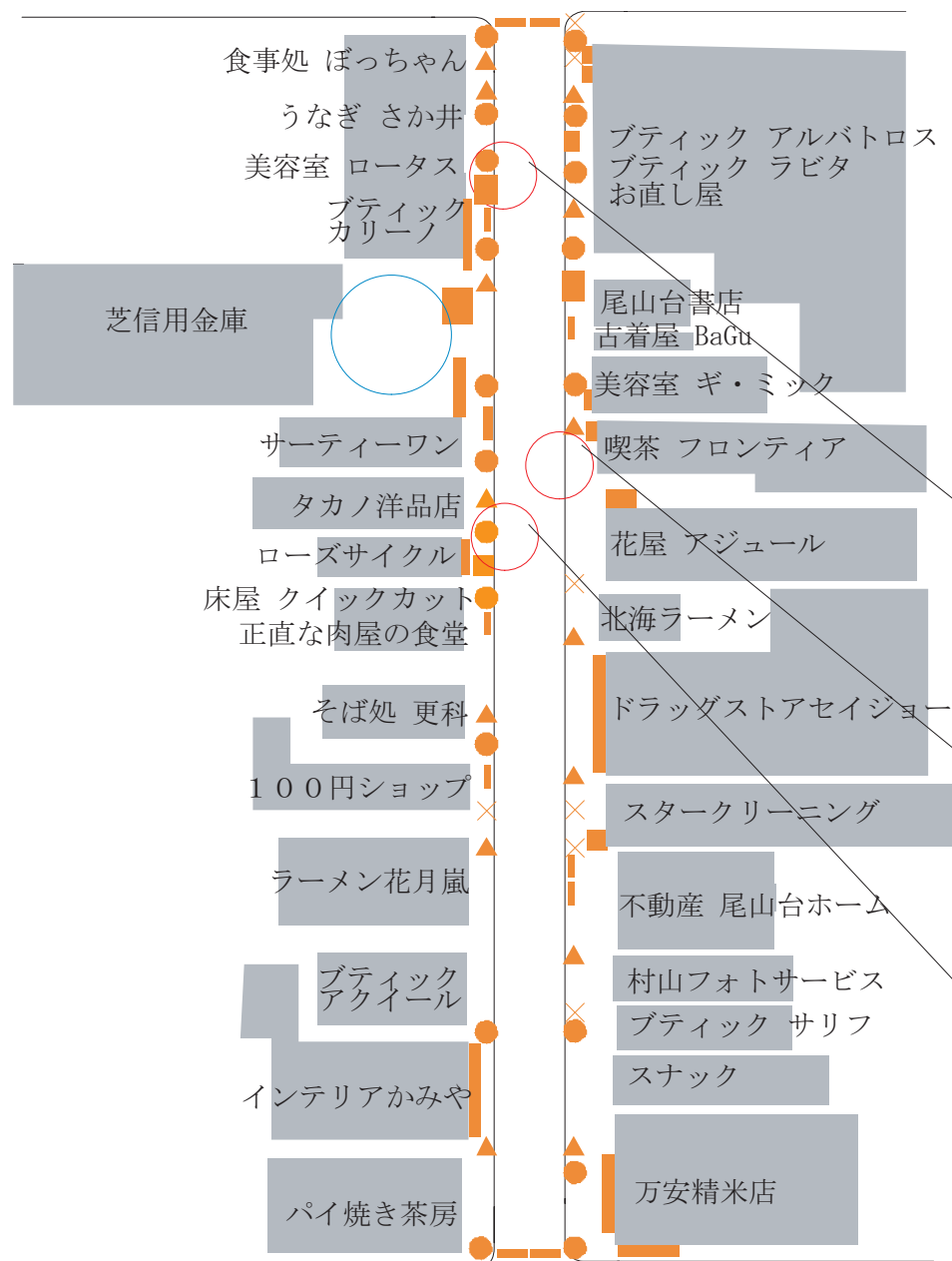
敷地現状

ハッピーロード尾山台商店街 WS 会場と金属ファニチャーとの関係

寸法：歩道 2700mm

樹木間隔 8300mm

車道 5500mm



- WS 会場
- 盆踊り会場
- 木の支え
- ▲ 街灯
- × 標識
- | 車止め
- 自販機



日中～夕方 (16～19時半頃)



街灯消灯 (19時半～20時頃)



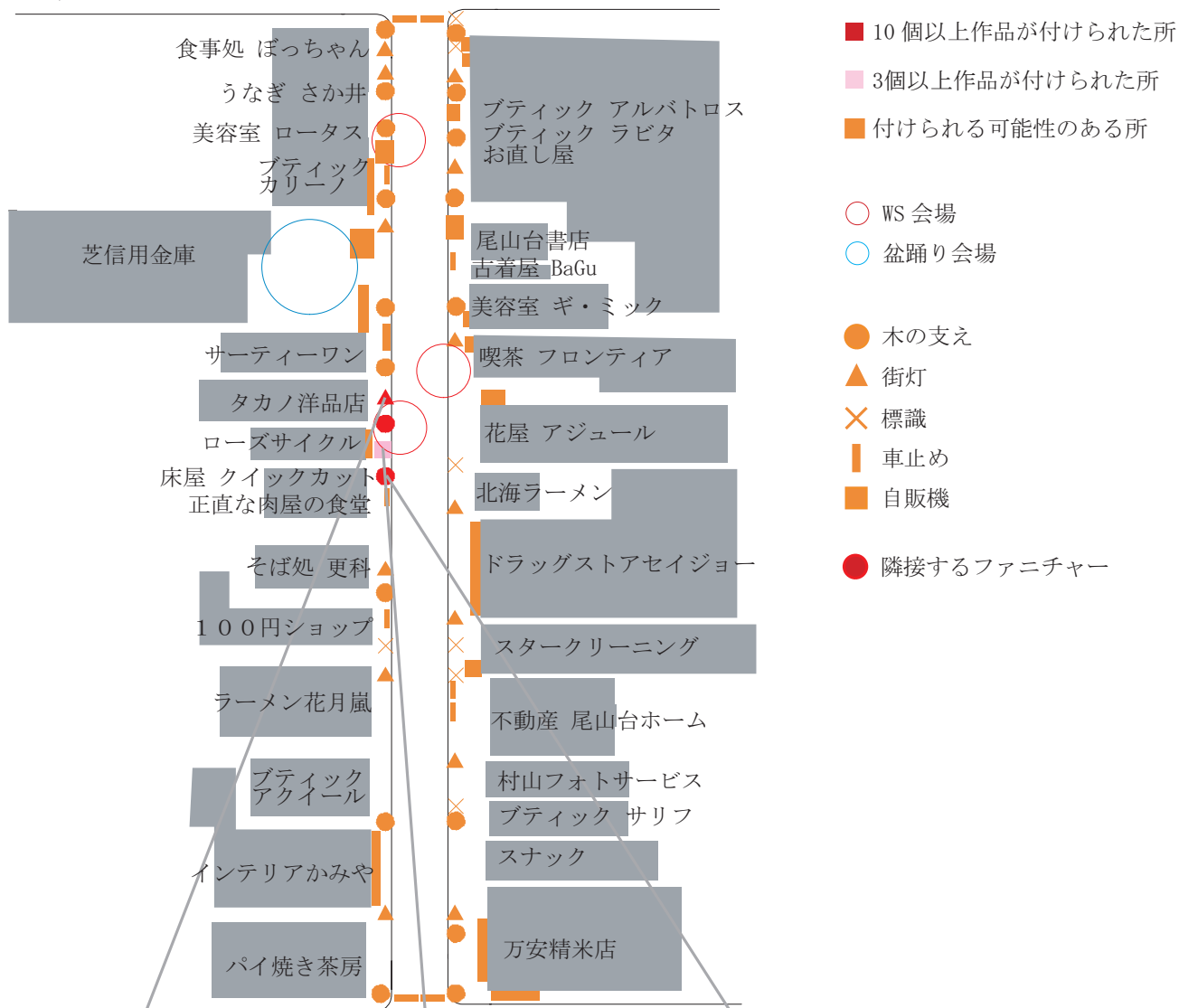
街灯再点灯 (20時以降)

■作品の分布図

参加者はまずLEDを用いた光の作品を手作りし、次に磁石のくっつく場所を探し、オリジナルの光を街にくっつけます。街には磁石がくっつきそうでもくっつかないところがあったり、思わぬところに磁石がくっついちゃいます。試行錯誤する中で街の要素に目を向けることを促す。街を一つの風景として見るのではなく、多くの要素の集まりとしてとらえ、その要素一つ一つに目を向けさせることをコンセプトとしました。

i) 夕方 (18:38-19:08) 街灯: 点灯、ii) 夕方ー夜 (19:24-19:54) 街灯: 点灯、iii) 夜 (19:56-20:26) 街灯: 消灯

ii) 19:24-19:54



12個

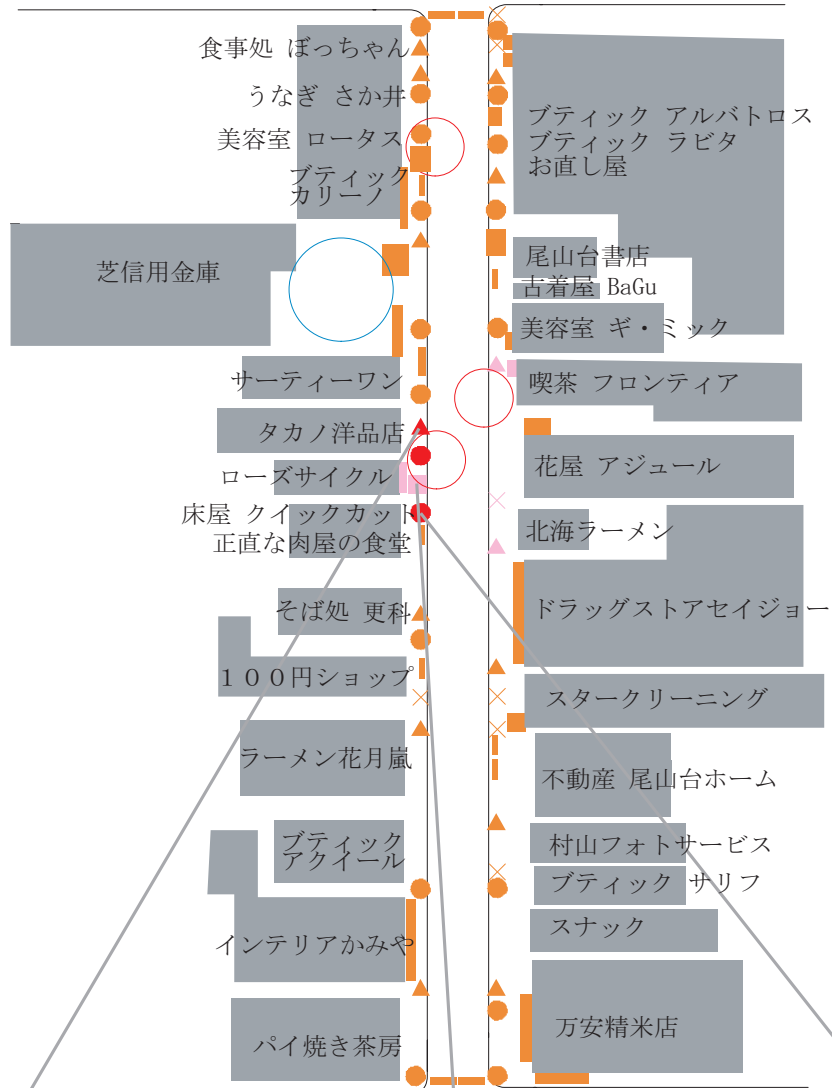


3個



14個

iii) 19:56-20:26



10個



3個

6個



11個

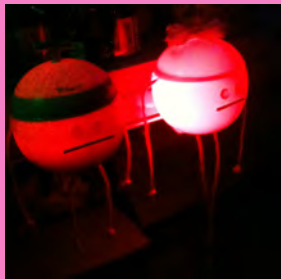
街灯が点いている状態(i 夕方、ii 夕方-夜)、街灯が消えた状態(iii 夜)を比べてみます。街灯が点いた状態(i)(ii)では参加者の行動に変化はほとんど見られませんでした。一方、街灯が点いた状態(ii)と消えた状態(iii)を比べると、街に付けられる作品が減り、持ち出される作品が多くありました。街灯が消え、暗い中で作品の光を持ち歩く行動が自然と誘発されたと考えられます。また周辺環境が暗くなり、子どもたちの発想で、作品をつくるよりも光で遊ぶことを楽しみだしたことから、光を拡げる行為に繋がったのだといえます。また、昼間は親や制作補助の学生に促されて街に置く姿が多かったのですが、夜になると子どもたちが街のあらゆるところに自主的に付ける姿が観察できました。その他にも、消灯時の子どもたちの行動から大人の参加者が現れたり、街に残された作品をイルミネーションとして楽しみ、写真を撮る行動も観察できました。

■作品集

数少ない種類の素材にも関わらず、バリエーションに富んだ様々な作品が子どもたちの手で生み出されました。ここでは、その中の一部を紹介します。できた作品に勝手ではありますが、私たちが分類をし、名前をつけてみました。



ラブうさぎ



メロン君とミカンちゃん



ピエロ



美男子



安全第一



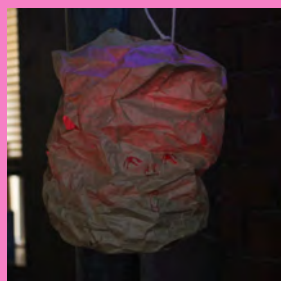
ニコちゃん



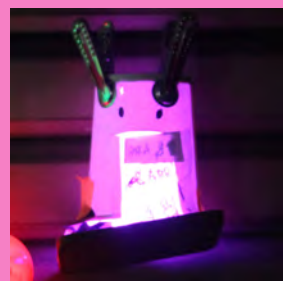
猫



袋おばけ



頭でっかち



ロボうさぎ



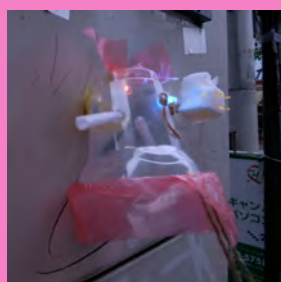
キモいか



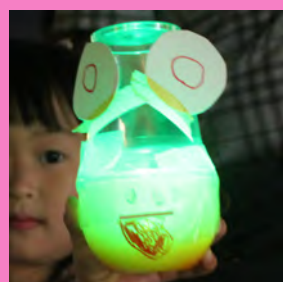
タイ崎



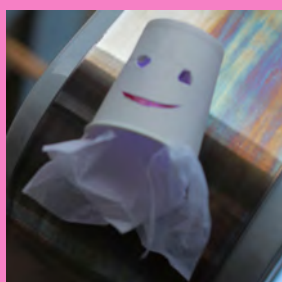
シロ



カップちゃん



カエル



かおなし



イカ



みやじうさぎ



ほうずきん



たこ



たからもの



おばけ



うさぎ



おやすみ



たぬき

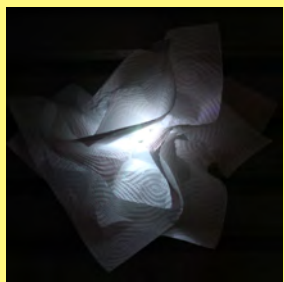


うっひゃっひゃ

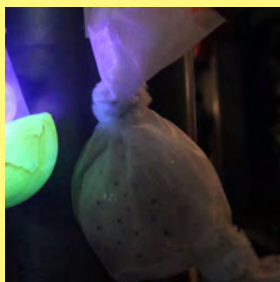


おさかな

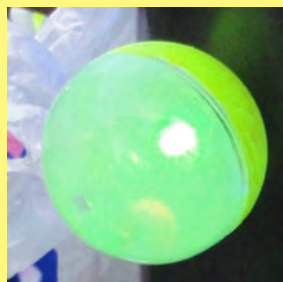
写真を撮りたくなっちゃうような可愛いあかりがいっぱい！



花



キャンディー



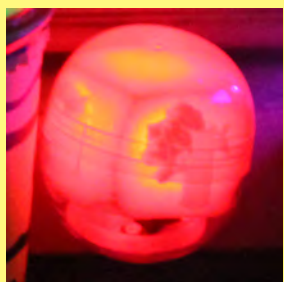
メロン



プレゼント



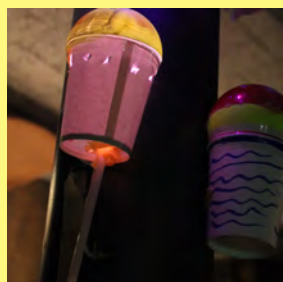
砂時計



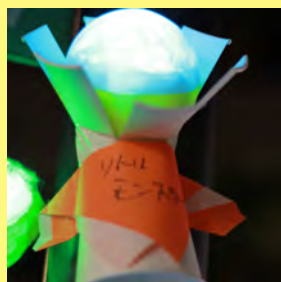
りんご



マラカス



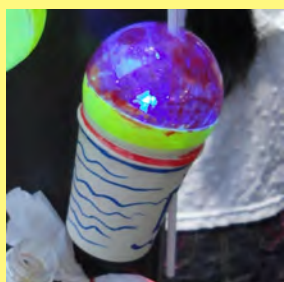
ランプ



リトルモンスター



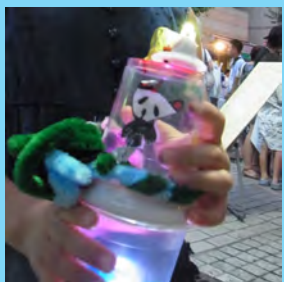
船



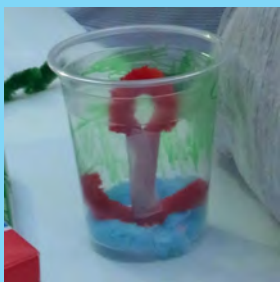
飲み物



マイク



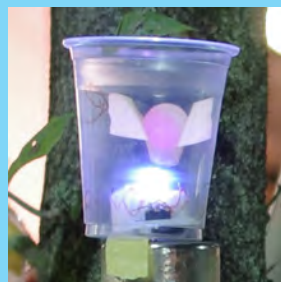
パンダのお家



碗



捕まった…



クリオネの水槽



カオ系



モノ系



トジコメル系

■昼は素材！

両日とも机の準備をしている段階から親子、友人同士で集まる大盛況で準備していた素材もなくなるほどでした。夕方の明るい時間帯では素材に興味がある子どもが多く、いくつかの素材を組み合わせたり、絵を描くことにこだわりをみせる傾向が多かったです。工作感覚でモノづくりを楽しんでいたが、その作品を街にくっつけるという行為に普段慣れないことをするので、恥ずかしがるような素振りも見られました。



■夜はアカリに…。

夜になると素材だけではなく、光中心にモノをつくる光景が多くなった。1つのカプセルや紙コップにいくつかのLEDを入れる様子や作ったモノを振り回す行動が観察できました。暗さとLEDの光が子どもたちの好奇心を掻き立て、気持ちの高ぶる空間になっていたといえます。また、子どもだけでなく、夜になると大人がワークショップに参加していく姿も見られました。これは子どもが中心のワークショップがLEDの光によって、大人までも惹きつけるアートになったといえます。



■くつつく場所探し

街は色々なもので成り立っていて、色々な素材、性質があります。磁石を使ってその街の性質を探っていくのはゲームのようでちょっとわくわくします。くつつきそうでもくつつかないところがあったり、思わぬところに磁石がくつついたりします。試行錯誤する中で街の要素に目を向けることを促します。街を一つの風景として見るのではなく、多くの要素の集まりとしてとらえ、その要素一つ一つに目を向けてもらうことをしました。



ここ付くかな？

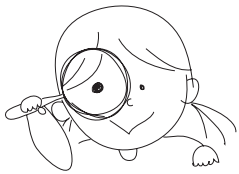
・・・付いた！



自分がくつついちゃった！

■世代、性別間のコミュニケーションを生むきっかけに

光をつけた場所として街灯、看板、車止めが多く観察された。日中は1つ、2つだった光が日没後にはいくつもの光で照らされ、その光に吸い寄せられて他の参加者もつけていく姿が見られた。また、1人だけではなく親子、友人で協力し合い、周りより高いところにつけたり、足元についた光を撮影する行為なども生まれた。



皆思い思いの場所を見つけて自分のあかりをくつつけていたね。



■次第にひろがり、変化していく作品

少し変わった場所として、自転車やシャッター、自動販売機がありました。個人のもののなので、光をつけづらいモノですが、一人がシャッターや自転車にくっつけている姿を見ると、他の人もつけていく傾向が見られました。

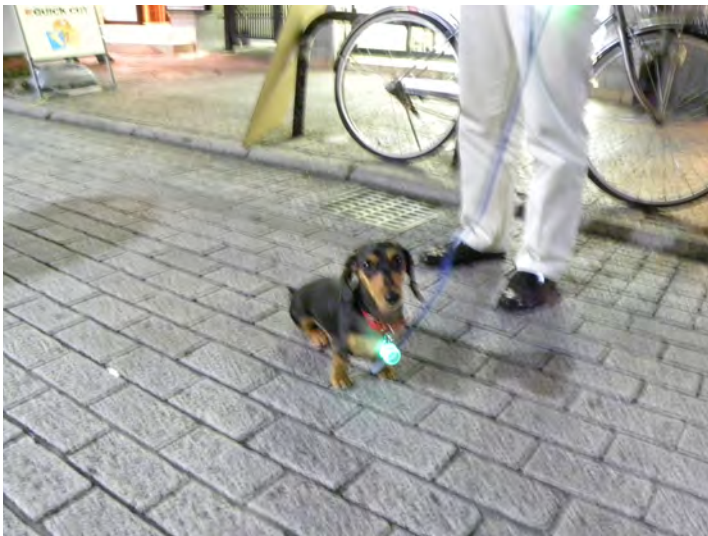


つくるモノも時間と日にちにつれて変化していき、街に「くっつける」というだけでなく、屋台のアカリとして子どもがかき氷のカップでランプを作ったり、大人が枝豆とLEDを組み合わせるなど、面白い作品も多く生まれました。



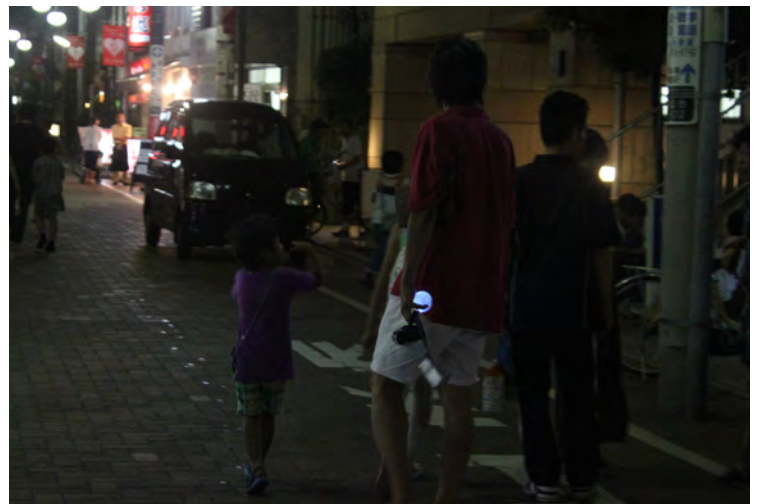
ペットの首飾りにしたり！！

髪飾りにしたり・・・♡



■商店街に光が根付く

イベントも終わり、帰っていく人たちは自分で作った作品をアクセサリとして身に付けていたり、持って帰ったり、イルミネーション、アートとして出来上がった作品を眺めながら帰る姿が観察されました。



■理想とする姿



街のイルミネーションをそこに住む住民たちでつくっていく。子どもたちが主体となり、楽しみながら街づくりを行っていくことが理想とする姿です。

これからも光を用いた活動続け、街全体を盛り上げるために提案していきます。商店街の中で良好なコミュニティを形成する原動力として、商店街への愛着、防犯性の向上、周辺環境のメンテナンスに繋がることを期待しています。